

若者たちの就職物語

～若者と企業のジョブカフェストーリー～



経済産業省 編
原 正紀 監修
㈱ 同友館 A5判 195頁
定価 1,890円 (税込)

1988年1月3日夜、1つのドラマが放映された。時間を持て余した人がテレビをみる時間帯に放映されたその作品は、大反響を呼び、時を経て再放送が繰り返されている。ジェームス三木作「翼をください」は、「落ちこぼれ高校」で劣等感と戦う高校生を正面から描いた作品で、主演陣ではなく、一人ひとりの高校生が舞台の上で自分を告白するシーンが話題を集めた。

この作品—「若者たちの就職物語」—を読んだとき、前述のドラマが思い起こされた。ジョブカフェサポートセンターの原正紀氏が監修したこの書籍には、厳密な意味での著者はいない。そこには、全国20カ所のジョブカフェにおける若者とスタッフの一特に若者の一、生の声が編纂されている。厳しい就職戦線の中で悩み、心傷ついた若者たちが、どのような過程を経て、自分の道、就職を探し出すかが、そこに描かれている。

本書は2部構成になっており、前半が若者、後半が企業の声をもとめたものである。後半は沖縄のように、若者に対して「目からうろこ」の思いを抱いた経営者の事例は好印象だが、若者の成長に大きく焦点をあてた前半に比べると、やや取材不足である。

バブル崩壊後の景気変動のなかで、企業は積極的に日本型雇用の見直しを行った。ただし、それは同時に、臨時雇用形態を中心とする不安定な労使関係を生み出している。少子高齢化が進む日本において、企業の求人へのアプローチへ一石を投じる好作品といえるだろう。

(監修の原氏は、東京支部会員)

評・篠田 昌人
(福岡県支部)



測定誤差の統計解析



J. L. Jaech 著 今野 廣一訳
丸善プラネット(株) B5判 254頁
定価 4,515円 (税込)

N個の測定方法で、n個の試料を測定する実験的状況での統計的

推測には、さまざまな方法が使用されているが、それらをまとめて提供している書籍がないことを著者は問題視し、この挑戦作に取り組んだ。この精巧な集約は、著者が、予測ミスが許されない原子力工業界に身を置いていたゆえに成し遂げられた業績ではないかと思う。

本書の第1章は、導入部として確率統計学を概説している。第2章では測定法が同等の精度を有するモデルについて解説、第3～7章がいわゆる本論となり、測定法が非等価な精度を有するモデルについて解説している。第3章では測定方法Nが2個の場合、第4章では $N=3$ 、第5章では $N \geq 4$ と測定方法を徐々に増やし、複雑性を増している。ここまでは対データを統計的推測法で用いる基礎としていたが、第6章ではオリジナルデータが統計的推測法で用いる基礎となる場合について検討している。第7章では、『最尤(さいゆう)推定法』と『積率(モーメント)推定法』とを比較している。

本書では、さまざまな手法の中で特に『最尤推定法』に紙幅を割いている。少し前、まったく別の分野で初めてこの『最尤推定法』という手法を耳にしたとき、恥ずかしながら『さいゆう』の漢字を相手の方に聞かなければわからなかった。この手法は、『最も尤もらしい量を推定するための統計的手法』である。あらゆる分野で複雑さが高まっている昨今、『最尤推定法』への注目はますます高まるのではないかと思う。

(訳者は茨城県支部会員)

評・三田 泰久
(三重県支部)

